

## 「人生の王道」

（稲盛 和夫 著 日経BP出版センター）

西郷隆盛の激動の生涯から「日本人かくあるべき」を学ぶ一書。

戦後60年、日本人は廃墟の中から敢然と立ち上がり、奇跡的な経済発展を成し遂げました。その結果、確かに物質的には豊かさを得ましたが、逆に精神的に豊かさを急速に失いつつあるのではないのでしょうか。

この進み行く心の荒廃こそが、日本人をして、その質が劣化してしまっているように見せるのです。また、現代の日本社会に混迷と混乱をもたらしている真因なのです。

古今東西の歴史をひも解けば、国家は隆盛と没落を繰り返しています。国民が真摯に努力を積み重ねることで、国家が成長発展を遂げると、やがて国民が慢心し驕り高ぶるようになり、国家が没落するということを繰り返しているのです。国家の盛衰は、国民の心の様相と一致しています。

今こそ、日本人一人ひとりが、精神的豊かさ、つまり美しく上質な心をいかにして取り戻すかを考えなければなりません。年齢を問わず、すべての日本人が改めてその品格、品性を高めることができれば、日本は世界に誇る上質な国民が住む国として、再び胸を張れるようになるはずです。私は、それこそが、真の日本再生であると考えています。

そのようなことを思うとき、かつて、とびきり美しく温かい心をもった、ひとりの上質な日本人がいたことを思い起こすのです。それは、西郷隆盛です。

西郷隆盛の「遺訓」をもとに、まず現代を生きる我々が本物の生き方を学ぶと共に、我々のリーダーシップを高め若者達を正しく導くきっかけをつかむ一書になると思います。